

# 第19回症例検討会

## case36

2022年 7月 11日

「続発性無月経の症例」

10代 女性

主訴：無月経

医師の診断名：続発性無月経

既往症：なし

医療機関：漢方クリニック、婦人科クリニック

内服薬：結合型エストロゲン錠(卵胞ホルモン製剤)、漢方薬

サプリ類：なし

生活歴：アルコールなし 喫煙なし

食事：バレエのために食事制限を行っている

出産歴：なし

アレルギー：不明

# 続発性無月経

続発性無月経は、規則的な月経周期の確立後に6カ月以上または月経周期で3周期以上の期間、月経がない状態である。

しかし、**以前の周期が規則的**であった患者では  
**月経が3カ月以上**なければ続発性無月経の評価が行われ

**以前の周期が不規則**であった患者では  
**月経が6カ月以上**なければ続発性無月経の評価が行われる。

## 無月経のタイプ(無月経の頻度の高い原因) :

- 妊娠 (妊娠可能年齢の女性では最も頻度の高い原因)
- 体質性の思春期遅発
- 機能性の視床下部性無排卵症  
(例, 過度の運動, 摂食障害, またはストレスによる)
- 薬物の使用または乱用  
(例, 経口避妊薬, プロゲステロンデポ, 抗うつ薬, 抗精神病薬)
- 授乳
- 多嚢胞性卵巣症候群

# 精査が必要

女兒が以下に該当する場合，原発性無月経の評価を行う：

- 13歳までに思春期の徴候（例，乳房の発達，成長スパート）がみられない場合.
- 正常な成長および第二次性徴の発達がある患者で15歳までに初経が起こらない場合.
- 妊娠可能年齢の女兒および女性で，以前は月経がありかつ以下の場合には続発性無月経の評価を行うべきである：
  - 「以前の月経周期が規則的であった場合には3カ月以上
  - または以前の月経周期が不規則であった場合には6カ月以上
  - 月経周期がみられない」
- 1年に月経が9回未満である
- 月経パターンが突然変化した

現病歴：

X-1年、カナダにバレエ留学(1年間).

幼少時からバレエを習っており、本格的に始めた中学時代から食事制限を行っている.

顔や下腿にむくみがみられ、ご本人によると薬を飲み始めてからとの事.

母親が漢方クリニックに通っていたため、相談. 婦人科での治療と並行して漢方薬処方を受ける.

# 客觀的情報

X年4月(初鍼時)

身長：1 7 3 cm 体重：4 8 kg

BMI：1 6 . 0 4 kg/m<sup>2</sup>

脈拍：6 4 拍/m

# 東洋医学的情報

脾・肝の失調(脾虚肝実、肝脾不和)

寒熱：手足の冷え 汗：あまりかかない

食事：体型を維持するために制限している(BMI 16)

二便：普通 睡眠：7h

月経：X-1年のバレエ留学時から月経がきていない

水滯：顔、下腿 硬結：下腿

脈診：脾虚(六部上位)

沈、遅、実、緊

腹診：全体的に筋緊張が高い、特に丹田から左にかけての硬さ

# 治療

取穴：背部俞穴に置鍼・点灸 頭部・手足要穴に置鍼

腹部散鍼

三陰交・陽関へ置針

刺鍼法：補 浅刺 置鍼

得気：無

深さ：2～4 mm

通電：有(各経絡対応型高周波治療器)

頻度：1 / 1 0 d

# 経過

X年4月 初鍼。漢方クリニックからの紹介。

漢方クリニックから、特に肝気の変調について治療して欲しいとの申しおきがあった。鍼灸は初めて。

婦人科の薬・漢方と並行して、10日～2週に一度の通院を提案。

X年6月 7鍼目。月経前から最中にかけて強い痛みを覚えながら月経。

X+1年1月

月経は不規則ながらも戻っていたので半年程度鍼灸を休んでいた。

PMS症状のために再鍼。

月経周期31～35日との事。

腹部全体の硬さと冷たさが特徴的。

X+2年9月

月経の問題やPMS症状も治まり、鍼灸院へは頓用的に来院。

# 考察

月経が不定期～3ヶ月以上来ていないといった訴え・ケースをしばしば経験する。

女性にとっての月経に対する考え方は一様ではなくしばしば、そのことを問題視していない患者さんに遭遇する。きめ細やかな問診が必要であると考える。

そのケースの中には、原発性のものや腹膜性病変も含まれておりまず除外する事が大切だ。

鍼灸院だけで判断する事は難しく専門科での診断が鍼灸施術を進める上で重要と考える。

また、思春期の患者さんとのコミュニケーションは難しい。

# 文献

## ガイドライン

産婦人科 診療ガイドライン—婦人科外来編2020

公益社団法人 日本産科婦人科学会

公益社団法人 日本産婦人科医会

[https://minds.jcqhc.or.jp/docs/gl\\_pdf/G0001188/4/gynecologic\\_disease.pdf](https://minds.jcqhc.or.jp/docs/gl_pdf/G0001188/4/gynecologic_disease.pdf)

P,100、102、114